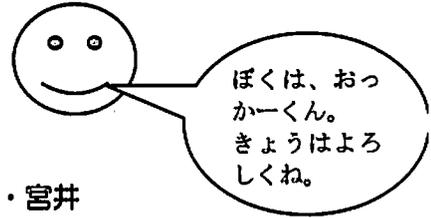


岡崎を歩く

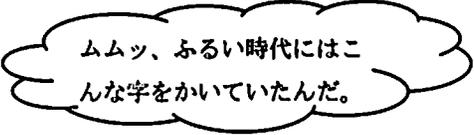


小学校集合⇒満願寺⇒教明寺⇒竜神街道⇒常福寺⇒岡崎御坊⇒弘法井・宮井
⇒弓取坂⇒条理遺構⇒西熊野神社⇒井辺八幡山古墳⇒小学校解散
全行程 約3 km

岡崎 (おかざき)

今は「岡崎」とかきますが、古くは「岡前」とかきました。地名は、あたりが丘のようで、その前に村がひらけたことからこの名がつけました。

・この地名が初めてあらわれたのは1048年(永承3)で、古いお米のちょうぼ(紀伊国名草郡郡許院(ぐんこいん)の収納米帳)に「岡前」とでてきます。



1 満願寺 (まんがんじ) 高野山真言宗

812年(弘仁3)、空海(くわかい)が全国をまわり布教(ふきょう)していたころにできたお寺。かつてはたくさんの寺の建物がありましたが、1071年(延久3)火災にあいました。鳥羽上皇(とばじょうこう)は、1175年(天治2)熊野詣(くまのもうで)を計画し、その帰りにここに立ち寄り寺を建てなおしました。



満願寺 『紀伊国名所図会』より



鳥羽天皇像『和歌山県文化財ガイドマップ』より

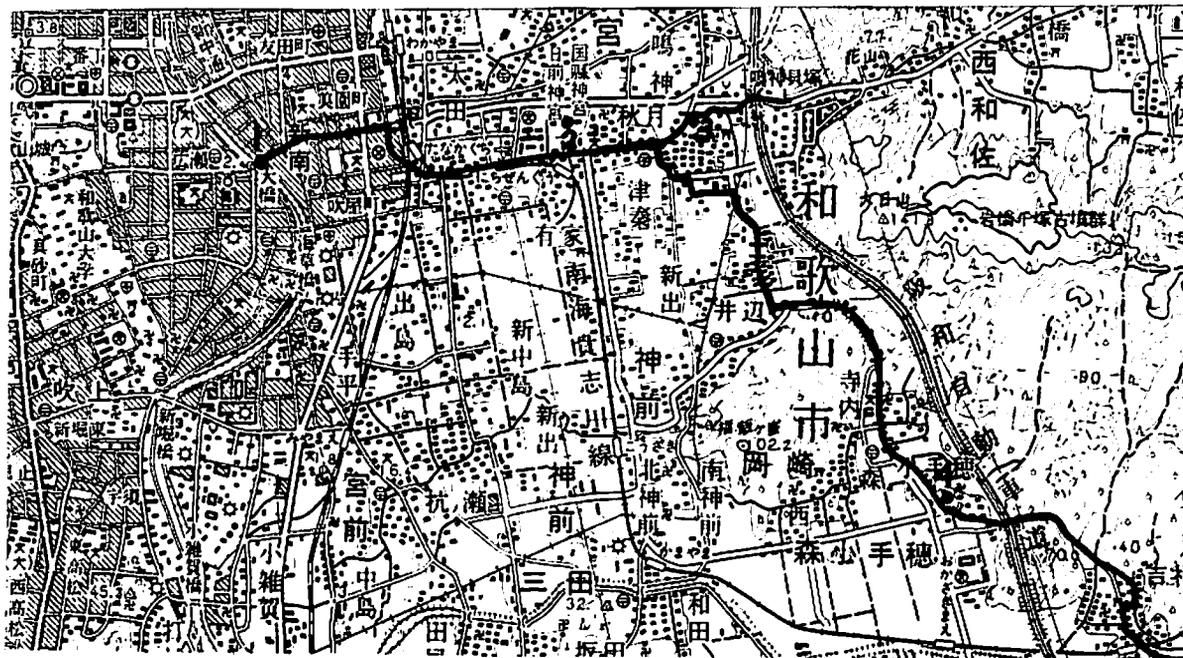
2 教明寺 浄土真宗本願寺派

岡崎は、浄土真宗(じょうとしんしゅう)のお寺が多いです。

- ・弘法大師（こうぼうだいし）ゆかりの井戸や満願寺（まんがんじ）→真言宗（しんごんしゅう）蓮如上人（れんにょしょうにん）が和歌山にくる→真言宗から浄土真宗へかわる
- ・岡崎甚九郎（おかざきじんくろう）道場（どうじょう）→教明寺へ

3 龍神街道（りゅうじんかいどう）

和歌山のじょうか町から竜神（りゅうじん）までつづく道。との様が、保養（ほよう）のため竜神温泉（おんせん）へ向かう道として利用されました。



『歴史の道調査報告書 竜神街道』より

4 常福寺（じょうふくじ）浄土真宗大谷派

元々は、弘法大師（こうぼうだいし）によってひらかれた真言宗（しんごんしゅう）のお寺です。しかし、1400年代の後半、蓮如上人（れんにょしょうにん）というお坊さんがきたとき浄土真宗（じょうどしんしゅう）にかわりました。

3代目 岡崎孫次郎（おかざきまごじろう）は石山合戦（いしやまかっせん）で活躍。

5 岡崎御坊（おかざきごぼう）浄土真宗本願寺派

1678年（延宝6）、和歌山市宇治（うじ）の光明寺（こうみょうじ）というだれもいなくなった寺をここにうつしたことから、この寺ができました。2000、3000ものはかがあるといわれています。その中にはわかやまの有名（ゆうめい）な人のはかもたくさんあります。

- ・鈴木孫市郎（すずきまごいちろう）のはか

今から400年以上前に織田信長（おだのぶなが）らとたたかった鈴木孫一（すずきまごいち）のしんせき関係の人？

墓碑銘

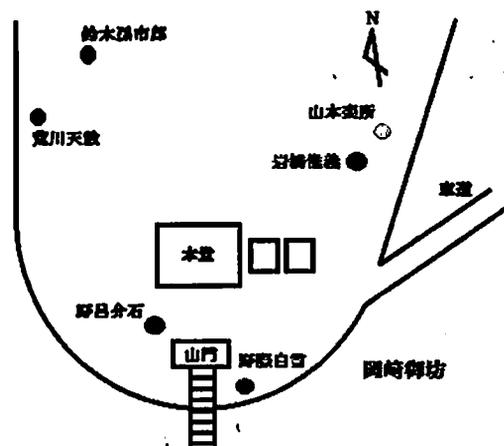
「平井住鈴木孫市郎義兼 法名釈法誓墓 先祖代々」正面

「若山住四代目平井屋善兵衛父鈴木孫七郎建之」裏

「寛政十二年（1800）庚申秋七月」裏

※蓮乗寺墓碑銘

むかしのゆうめいな人のお墓がこんなにあって！



「釈法誓墓」正面

「雑賀住平井孫市郎藤原義兼」左

「天保三年（1832）壬辰五月上旬改」

「天正十七年（1589）己丑五月二日」右

「当寺九世現住正因再建之」裏

・野際白雪（のぎわはくせつ）のはか

江戸時代後期の和歌山の画家（がか）。1773年（安永2）生まれ。絵の先生は野呂介石（のろかいせき）。山や川などの絵をかく。1849年（嘉永2）なくなる。

・荒川天散（あらかわてんさん）のはか

江戸時代中期の和歌山の儒学者（じゅがくしゃ）。1654年（承応3）生まれ。先生は伊藤仁斉（いとうじんさい）。1735年（享保20）なくなる。

・山本楽所（やまもとらくしよ）のはか

江戸時代後期の和歌山の儒学者（じゅがくしゃ）。1764年（明和元）生まれ。わかやまの学習館という学校の校長先生になりました。1841年（天保12）なくなりました。

・野呂介石（のろかいせき）の碑（ひ）

江戸時代後期の和歌山の画家（がか）。1747年（延享4）生まれ。父が医者で、先生は桑山玉洲（くわやまぎよくしゅう）。1828年（文政11）なくなる。



岡崎御坊

『紀伊国名所図会』より

6 お手堀井（おてぼりい）

弘法大師（こうぼうだいし）が812年（弘仁3）ほったという井戸。古い資料には、

いつも水があふれでいて、日でりがつついてもかれず、雨がふってもにこらない井戸で、近くの人々は朝夕、ごはんをたく水として使い、たび人はみんなここにきて水をのみます、と書かれています。

7 宮井（みやい）

この地区の田では、宮井用水により水をひき、田に水をいれます。

宮井…名前は日前宮（にちぜんぐう）の用水であることから。

このあたりは紀国造（きのくにのみやつこ）という人が勢力（せいりよく）をもっていて、この宮井の水のかんりをしていました。



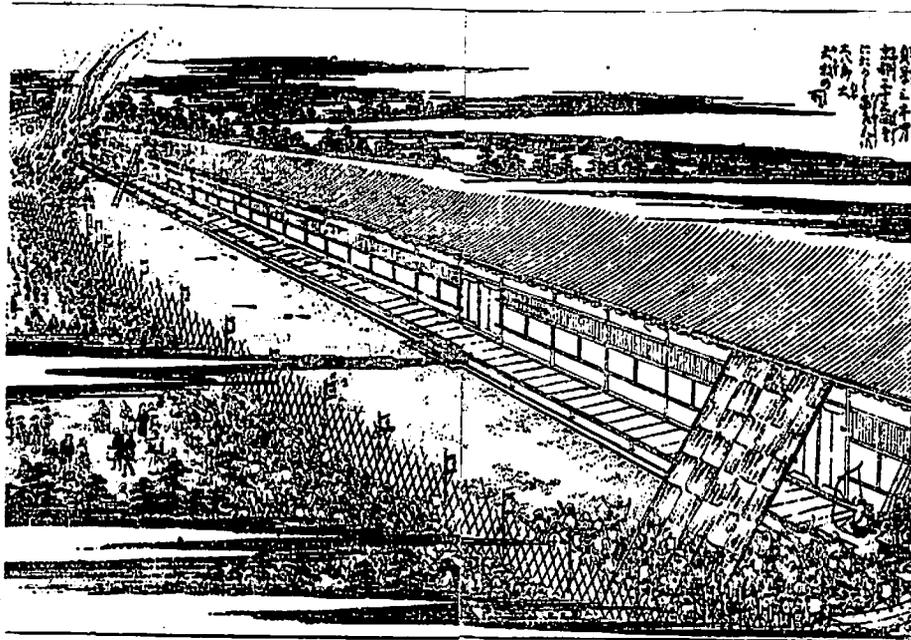
すっ、すご〜い。「わさだいはちろう」ってスーパーマンだね。

8 弓取坂（ゆみとりざか）

森小手穂（もりおてぼ）と吉礼（きれ）との間にある坂。かつて和佐大八郎（わさだいはちろう）という弓（ゆみ）の名人がここにきて、この坂から西にむけて矢をはなちました。するとその矢は、やのみや神社までとどきました。そのお話からこの名がつけました。

・和佐大八郎は、京都三十三間堂（さんじゅうさんげんどう）の弓の大会で日本一になりました。

（大矢数13053本のうち、8133本で天下一。1686年（貞享3））

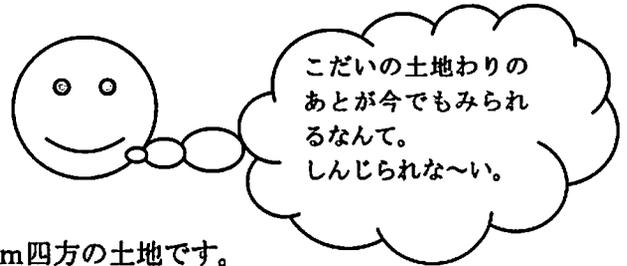


三十三間堂の通し矢 『紀伊国名所図会』より

9条里制（じょうりせい）

古代における土地のわけ方。

- 土地をやく650m四方ごとにわけ
- これをさらに36等分（とうぶん）する
→これを「坪」（つぼ）といいます。やく109m四方の土地です。
- 坪をさらに10とうぶんする
→これを「段」（だん）といいます。
- 6才以上の男子 2段 女子はその3分の2 の土地をあたえて税（ぜい）をとりたてました。
- わかやま市では、紀の川の北と南に条里制が見られます。



こだいの土地わりの
あとが今でもみられ
るなんて。
しんじられな〜い。

南がわ…日前宮（にちぜんぐう）、わだ、いだきそ、わさのあたりに条里制がみられます。
岡崎はわだのあたりにふくまれます。

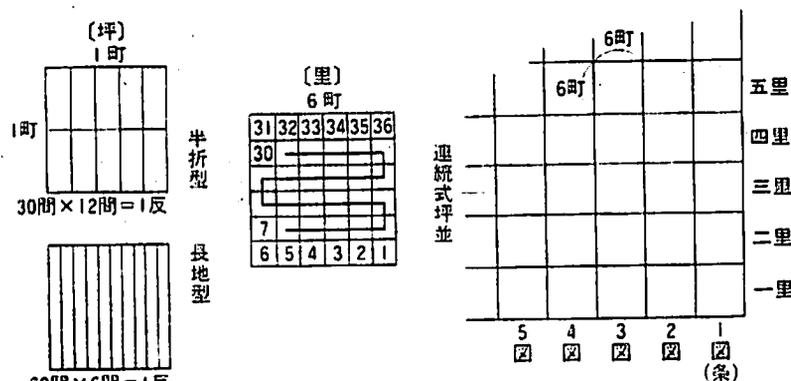


図3 紀伊の条里計画

紀伊の条里計画 『和歌山市史』第1巻より

10 西熊野神社（にしくまのじんじゃ）・団七踊（だんしちおどり）

夏のお盆（ぼん）の時に岡崎でおこなわれる、あだうちを題材（だいざい）にした踊り。

あらすじ

あるとき（於奥州仙台白石郡）、父さんとむすめ3人が田の草取りをしていた。妹の信夫（しのぶ）が草をまるめて、ひょいと道端（みちばた）へほりなげました。すると、そこをちょうど通りがかった代官団七（だいかんだんしち）の着物（きもの）に田の草がかかりました。むすめの父はあやまりましたが、おこった代官が、父を切りすてました。

なげき悲しみ、団七にうらみをいだいたむすめ二人は江戸に上って、由井正雪（ゆいしょうせつ）に剣術（けんじゅつ）をおそわることになりました。そして団七とのあだうちが実現（じつげん）し、みごと団七をうちはたしました。

1 1 井辺八幡山古墳（いんべはちまんやまこふん）

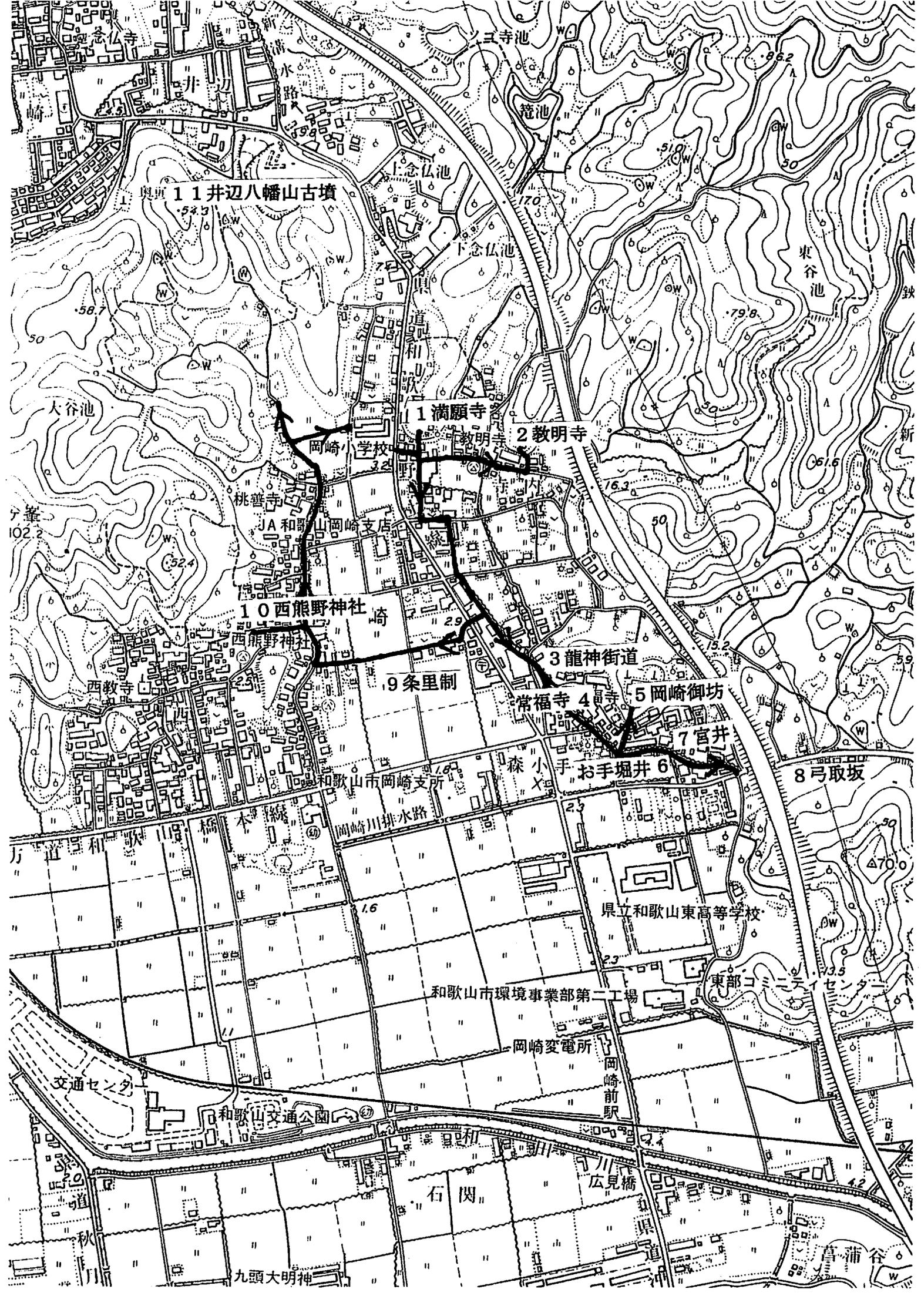
この古墳（こふん）は高さ54mの八まん山の頂上（ちょうじょう）にあり、長さ88mの前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）です。おおくのはにわがほりだされておき、なかには、顔に入墨（いれずみ）をしてふんどしをしめた力士のはにわや、武装（ぶそう）した武人、馬やいのししやにわとりといった動物のはにわなどがあります。

男子立像埴輪



おかざきって、けっこうふるいれき史があるんだね。いつもなにげなく歩いて、けしきをみてたけど、こんなにたくさんのいせきやお寺、じんじゃがあるなんて、ぼく、しらなかつたよ〜。

でも、きょうはみんなといっしょにみてまわって、いろいろなことがわかりました。ありがとう。これからもおかざきのこともっとしろうね〜。



1 井辺八幡山古墳

1 満願寺

2 教明寺

10 西熊野神社

9 条里制

3 龍神街道

5 網崎御坊

6 お手堀井

8 弓取坂

和歌山市環境事業部第二工場

岡崎変電所

岡崎前駅

和歌山交通公園

石関

広見橋

九頭大明神

唐浦谷